

吉備池廃寺発掘調査報告の刊行

奈良文化財研究所がおこなった発掘調査には、近年、世間の注目を集めたものが少なくありません。吉備池廃寺もそのひとつです。

この遺跡は、当初、瓦窯跡と推定されていましたが、1997年から5年間にわたる調査で、飛鳥時代の大規模な寺院跡であることがわかりました。巨大な金堂と塔を東西に並べた伽藍配置としては、最古の例となります。

堂塔や伽藍の規模は、同時代の国内寺院をはるかにしのぎ、新羅の皇龍寺や藤原京の大官大寺に比肩します。そこで、639年に舒明天皇が創建した最初の勅願寺「百濟大寺」の跡と目されることになりました。瓦をはじめとする遺物の年代や出土状況も、そうした想定を裏づけています。

各年度の発掘調査の概要については、奈文研年報・奈文研紀要で公表してきましたが、このたび、一連の調査の正式報告が刊行の運びとなりました。これを基礎資料として、今後の研究がいつそう進展するものと期待されます。

なお、本書は、『大和 吉備池廃寺』という書名で吉川弘文館から市販されています（A4判、上製、箱入り、274頁、図版72頁、税別9500円）。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 小澤 毅）

